

東京將來ノ震災ニ就キテ

委員 理學博士 大森房吉

東京ニ危害ヲ及ボスベキ地震ハ二種アリ、(甲)南東太平洋方面ヨリ發スルモノト、(乙)武藏及ビ附近ノ内陸ヨリ發スルモノトアリ、(甲)ハ區域廣大ナル破壊的地震ニシテ、元祿十六年江戸小田原地震ノ如キハ此ノ種ニ屬ス、又タ(乙)ハ區域狹少ナル局部的破壊地震ニシテ所謂安政江戸大地震及ビ明治二十七年六月廿日東京附近激震ノ如キハ即チ此ノ種ニ屬スルモノトス、(震災豫防調査會報告第六十八號乙並ニ本號水道鐵管震害ノ條ヲ參照スベシ)。

(甲)太平洋方面ニ發生スベキ將來ノ大地震ト東京トノ關係ヲ説明センガ爲ニ安政ノ地震ヲ調査センニ、同時期ハ實ニ本州東北部ヲ除キテハ殆ト全般ニ地殼變動ヲ發セルモノト謂フベク、嘉永六年ヨリ安政年間ニ亘リテ左ノ如ク十二回ノ破壊的地震アリタリ。

- (1) 嘉永六年二月二日(西曆一八五三年三月二日)小田原ノ局部的激震
- (2) 安政元年六月十五日(同一八五四年七月九日)伊賀伊勢畿内地方ノ大地震
- (3) 安政元年十一月四日(同一八五四年一月二三日)東海道大地震
- (4) 同 十一月五日(同一八五四年一月二四日)南海道大地震
- (5) 同 十一月七日(同一八五四年一月二六日)伊豫大洲ノ地震

- (6) 安政二年十月二日(西曆一八五五年一月二日)江戸局部激震
 - (7) 同 三年七月二十三日(同一八五六年八月二三日)北海道東南部ノ地震
 - (8) 同 四年閏五月二十三日(同一八五七年七月一四日)駿河相模ノ地震
 - (9) 同 八月二十八日(同一八五七年一月一五日)伊豫地震
 - (10) 同 五年二月二十六日(同一八五八年四月九日)越前越中ノ地震
 - (11) 同 三月十日(同一八五八年四月二三日)松代ノ地震
 - (12) 同 六年二月五日頃(同一八五九年)武藏國岩槻ノ地震
- 大地震ガ偶然ニ發スルニ非サルヲ見ルベシ、前記十二回地震ノ震原地概位置ハ第一圖ニ示ス(3)及ビ(4)(D₁及ビD₂トス)ハ本邦外側ノ大地震地帯ニ屬スルモノナルガ、此等兩地震ハ連續セル現象ニシテ一群ノ變動ヲ構成ス。此ノ以前ニ在リテハ元祿十六年(西曆一七〇三年)及ビ寶永四年(西曆一七〇七年)ノ兩地震(C₁及ビC₂)モ一ト組ノ變動ト見做シ得ベシ、二更ニ前代ニアリテハ慶長九年(西曆一六〇五年)ノ大震(Bトス)ト明應七年(西曆一四九八年)ノ大震(Aトス)アリ、共ニ同一地震脈ヨリ發シタリ、今大地震ハ同一震原ヨリ發起スルコト無キヲ以テ將來ノ東海、南海兩道方面ニ發スベキ大震ハA B C₁ C₂ D₁ D₂ノ地點以外、其ノ中間及ビ兩端ノ區域ヨリ起ルベキモ(C₁)ト(D₁)トノ間ハ富士火山帯ニ屬シテ大地震ヲ發スルコト無カルベケレバ、東京南東ノ海底ヨリ發震シテ元祿十六年ノ江戸小田原地震ノ如キ災害ヲ東京附近ニ及ボスベキ危険ハ目下寧ロ少ナカルベシト思ハル。

第一圖

安政年間破壞の大地震

各黒點ハ震原ノ概位置ヲ示ス
 (1) ヨリ
 (12) マテ



(乙)安政二年十月二日夜ノ江戸大地震ハ江戸直下ヨリ發起シ、安政以後東京ニテ最強ナリシ明治二十七年六月廿日午後二時頃ノ地震ハ東京ノ附近ヨリ發起セルモノナルガ、今マ大正三年一月ヨリ同八年十二月迄デ最近六個年間ニ於テ頻繁ニ東京ヲ震動セル有感ノ主要地震數ハ左ノ如シ。

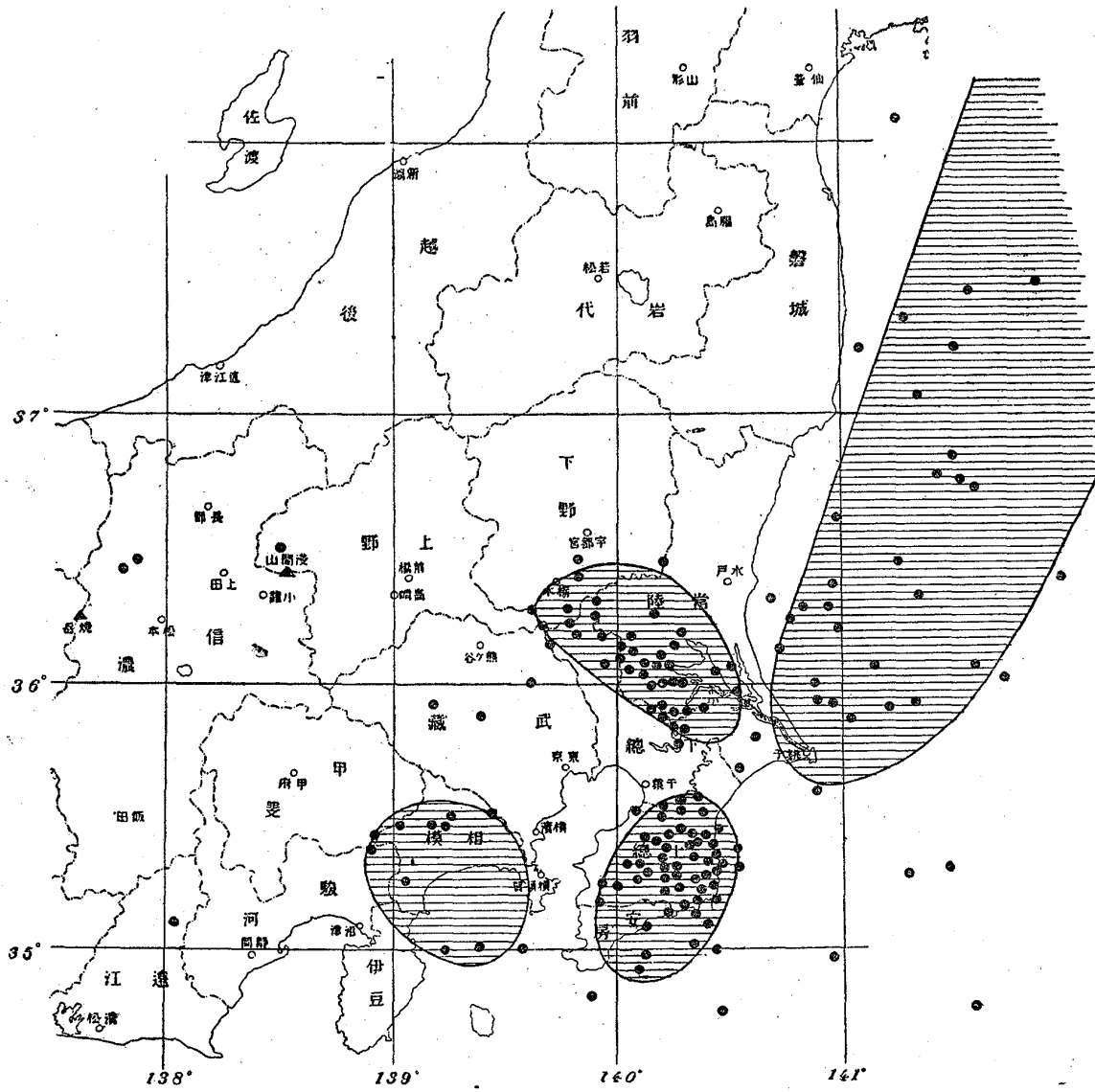
大正三年	十九回
四年	四十九回
五年	二十四回
六年	三十四回
七年	二十五回
八年	二十四回

ニシテ合計百七十五回ニ達セリ、微動計觀測ニヨリテ此等百七十五回ノ地震ニ就キ一々其ノ震原位置ヲ推定シタル結果ヲ第二圖ニ示ス、(東北海中六回ノ分ハ圖ノ外トナル)。震原ノ配置ヲ通覽スルニ主トシテ(一)房總半島方面、(二)筑波山霞ヶ浦方面、(三)箱根、足柄、相模方面、(四)東北海中ノ四區域ニ限リ武藏原野、東京灣等東京直接ノ低窪地ヨリ殆ト全然發起セザルヲ見ルベシ、即チ目下ハ東京附近ノ低窪地區ハ平穩ノ狀況ニアリテ、東京ヨリ十六七里ヲ距ダツル周圍ノ山岳地域(一)(二)(三)ニ於テ活動特ニ盛ナルモ此等三區域ハ大地震ノ起原

トナルコト無シト思ハルレバ、此ノ種ノ地震ハ如何ニ多ク發生スルトモ、格別心配スルニ及バザルベシ、之ニ反シテ數年ヲ經テ周圍ノ地域ガ平穩トナリ、武藏平原ガ活動ヲ開始スル時期トナレバ東京附近ニ多少損害ヲ與フベキ地震ヲ發スルコト明治廿七年ノ如クナルベキモ目下直チニ此ノ時期ニ達スベシトハ考ヘラレズ、而シテ激震ハ同一個所ヨリ繰リ返シテ發生スルコト無ケレバ安政二年江戸大地震ノ如ク東京直下ヨリ破壊的地震ヲ發スルコトハ無キモノト認メ得ベキナリ。

布分ノ點原震近附京東 圖二第

デマ月二十年八リヨ月一年三正大



各小黑點ハ震原點ヲ示ス